

## 論文内容の要旨

報告番号	空欄	氏名	長谷川 真理
Risk factors of malnutrition in children with severe motor and intellectual disabilities  (重症心身障害児における低栄養のリスク因子についての検討)			

### 論文内容の要旨

【はじめに】重症心身障害児(重心児)は低栄養に陥るリスクが高く,しばしば経管栄養を必要とする。しかしその必要エネルギー量を設定することは容易ではない。なぜなら,食事摂取量,発達遅滞の重症度,呼吸状態等様々な要因が影響するからである。【目的】重心児における栄養状態について調査し,やせが強い児とそうでない児の身体測定値や血液検査所見,筋緊張や呼吸管理方法,栄養管理方法等の臨床所見について比較検討するとともに,低栄養に影響を及ぼす因子を検討した。【対象と方法】奈良県で在宅医療を受け,摂食機能障害を有する重心児 42 例を対象に,3 日間の食事記録および身体測定,血液検査,合併症や身体能等のプロフィール調査を実施した。Body mass index (BMI) z-score < -2SD を低栄養児と定義し,低栄養群と非低栄養群における栄養摂取量や栄養法,臨床所見等を比較した。さらに低栄養のリスク因子について統計学的解析を行った。【結果】年齢の中央値は 5.7 歳,経管栄養を行っているのは 33 例(79%)であり,20 例(48%)が低栄養であった。また,低栄養群は非低栄養群に比して有意に年長であった。平均エネルギー摂取量は各年齢の推定エネルギー必要量の 59.2%であり,両群で有意差はなかった。経口摂取のみの群は経管栄養を受けている群よりも有意に BMI z-score が低値であり,呼吸補助を受けていない群は受けている群よりも同様に BMI z-score が低値であった。低栄養との関連因子について多変量解析を行ったところ,呼吸補助の有無が栄養法,筋緊張,エネルギー摂取量,合併症等の他の因子と比較して有意に BMI z-score と関連があった。さらに,3 歳以上においても乳児用調製粉乳を使用している不適切栄養児を 18%に認め,非使用例に比して有意に総コレステロールおよび LDL-コレステロールが高値であった。【結論】重心児における適切な栄養摂取量は呼吸補助の有無を考慮して決定すべきである。さらに一度決定した栄養内容も,年齢や BMI z-score 変化率,栄養状態および呼吸状態を定期的に評価することによって,適切に変更していくことが重要である。